

# 東海第二原発 再稼働ストップ 福島悲劇を繰り返さない 「廃炉」に！！

36年の老朽原発、非常に危険です

東海第二原発は、運転開始から36年経過した老朽原発であり、茨城を襲った地震津波で電源が喪失し、大事故寸前だった被災原発です。構造的にも重大な危険性を抱えています。

●地震動を引きあげましたが、抜本的な地震対策ができていません。格納容器他主要設備は被災前のままです。

●格納容器下部に水プールがあるため、落下核燃料で水蒸気爆発の恐れがあると指摘されています。

●現在の可燃性ケーブルを難燃性ケーブルに交換できないため火災の危険があります。

●フィルターベントは、放射能を放出して生活圏を犠牲にします。

●過酷事故対策を、最後は「人の手」に頼るは無理です。

福島原発事故は

東日本 壊滅の危機でした

福島原発事故から4年になる今でも、12万人余が故郷に帰れません。

汚染水は止まらず、放射能が高く近づけず、原子炉の内部状況は誰にもわかりません。現在でもこの酷さですが、事故発生当時は、東京を含めた250km圏の避難が想定され、東日本が壊滅するところでした。

(原子力委員長談)

それは、原発4号機の水素爆発で建屋上階の核燃料プール崩壊の危機、また2号機では、原子炉格納容器内に水が入らず内圧上昇で爆発の危機でした。このことは、公表された吉田所長の調書でも書かれています。

私たちが今あるのは、危機一髪で救われた偶然の産物といえます。

福島原発は、冷やし続けなければならず、今でも溜り続ける汚染水で危機は続いています。

また、原発はトイレなきマンションと言われていています。使用済み核燃料は、処理できず、保管施設もなく、各原発に溜り続けます。このような原発を再稼働で子ども孫の世代に引き渡すことは出来ません。



日立市に断固反対の大看板

245号道大みか町泉が森入口にあります